

論文要旨

| | | | | | |
|--|--------|------|----------|----|------|
| 所属ゼミ | 河野 研究室 | 学籍番号 | 80430889 | 氏名 | 松尾 修 |
| (論文題名) | | | | | |
| 外資系企業における I T 部門の問題・課題とその解決策 － A 社を事例として－ | | | | | |
| (内容の要旨) | | | | | |
| <p>本研究は、筆者が所属する外資系企業 A 社の I T 部門を研究対象として、A 社 I T 部門における真の問題や課題を特定し、その問題や課題に対する解決策の提言を行うものである。</p> <p>A 社は、I T 部門において様々な失敗を繰り返してきた。その結果、経営層が I T 部門に対して強い不信感を抱いており、I T 部門の一員として、コスト削減を目的に子会社化されてしまうのではないかという危機感を感じた。多くの金融機関において I T 部門を子会社化しているにもかかわらず、A 社が I T 部門を子会社化していないのはなぜかという問題意識が、本研究の出発点である。</p> <p>問題意識の背景には、様々な問題や課題が存在しており、まずはその明確化が必要であると考えた。そのために、自らの業務経験に基づいて、主観的観点から因果関係図を用いて問題や課題の洗い出しと体系化を行った。その結果、問題や課題の多くが組織マネジメントに関係していることが明らかになった。その上で、客観的観点からそれらの問題や課題の存在と発生原因を考察するため、A 社 I T 部門に対してアンケート調査とインタビューを実施した。</p> <p>その結果、因果関係図でリストした問題や課題の多くが実際に問題として認識されているが、その一方で、表面的な問題や課題の背後には、外資系企業特有の短期成果主義から起因する長期的観点の欠如が存在し、根元的な問題は、I T 部門に対する中長期的な戦略やビジョンが存在していないことにより全体最適が実現できないことであるとわかった。</p> <p>真の問題点を解決するために、本研究では、現場レベルにおいて、長期的な体質変革に取り組む必要があると考え、I T 部門の組織風土を反映する経営数値をリストし、組織風土を変革するために I T 部門が取り組むべき活動と経営数値との関係について、具体的事例を交えて考察し、提案した経営数値指標と活動施策の有効性を考察・検証した。</p> <p>今まで、A 社 I T 部門において、I T 部門の活動内容を経営数値の定量把握と対応させて検討する考え方はなく、また、経営数値の定量的把握は経営層から現場レベルまで各層において様々なメリットが多いことから、本研究の提案内容が A 社において実際に導入され効果を発揮することが期待される。</p> | | | | | |